

平成23年度 森プロ事業実績：飛騨高山森プロ

(平成24年3月末現在)

	H20～22年度		H23年度				5カ年	
	計画	実績	計画	実績	達成率	備考	計画	
集約化(ha)	348	185	0	50	—		348	
作業道(m)	15,000	20,346	5,000	4,955	99%		25,000	
間伐等	面積(ha)	179.0	95.6	65.0	37.0	57%	利用+切捨	309
	材積(m3)	6,300	11,235	2,400	4,668	195%		11,100
備考								

H23年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む)

1,700 円/m3

施業集約化の状況

- ・平成22年までに杭打ちを完了した森林を核に当時集約化出来なかった森林所有者にも地域施業推進員の協力を得ながら集約化に努めることができた。
- ・施業の完了した現場を見て、森プロ区域外からも集約化の依頼があり実行した。

施業プランの活用状況

- ・引き続き、提案書を作成して、所有者と事業契約を進めた。
- ・提案書様式についてさらに細部がわかりやすい様式を検討し様式変更に取り組んだ。(H24年から新様式を活用予定)

施業プランナーの養成状況

- ・講習会により1名のプランナーを養成した。
- ・H24年も1名のプランナーを養成予定、これで各支所1名以上のプランナー配置となる。

作業道の状況

- ・冬場木材を搬出する上で路面が荒れ走行不能になった路面の修理を行った。
- ・作業道の基準の変更に伴い幅員3.5mを中心に基幹線をほぼ計画の4,956m開設した。
- ・土壌条件が悪く開設コストがかかりそうな路線にたいしては山林所有者にご理解をいただき山土砂を現地採取しコストをおさえ開設することが出来た。
- ・濁度調査を行い、作業道が河川へ与える濁りを目視だけでなく数値で確認出来た。



土壌の入替が必要な黒ぼく



現地採取山土砂

作業システムの状況 H23木材生産性 4. 14m³/人・日(4,668m³/1,125人)

- ・ 作業道開設→伐倒(チェーンソー)→集材(グラップル0.45)→造材(ハーベスタ0.45)→グラップル0.45(積込)
- ・ 作業道開設→伐倒(チェーンソー)→集材(スイングヤーダ0.45)→造材(ハーベスタ0.45)→グラップル0.45(積込)
- ・ 作業道開設→伐倒(チェーンソー)→集材(スイングヤーダ0.45)→造材(ハーベスタ0.45)→搬出(フォワーダ4t)→グラップル0.45(積込)
- ・ 既設作業道→伐倒(チェーンソー)→集材(スイングヤーダ0.45)→造材(ハーベスタ0.45)→搬出(フォワーダ4t)→グラップル0.45(積込)
- ・ 既設作業道→伐倒(チェーンソー)→集材(スイングヤーダ0.45)→造材(ハーベスタ0.45)→グラップル0.45(積込)

取り組んだ内容

- ・ 斜面の急傾な所は道作りのコストがかかり、後々の災害が起こる可能性が高いため作業道の開設を避けてきた。よって必然的に簡易架線集材を伴う現場が残り、スイングヤーダにより搬出間伐を行った結果、生産性は落ちたものの所有者からは高評価を受けることが出来た。
- ・ (若齢林)間伐手遅れ林分かと思われた森林で利用間伐を行った結果、成長を期待出来る仕上がりがとなり健全な森林空間を提供する事が出来た。



間伐前



間伐後

その他

- ・ 11月13日『美しい森林づくりin宇津江』というタイトルで、高山市森づくり委員会・飛騨農林事務所・高山市・飛騨森林管理署等で広葉樹活用への市民参加の体験イベントを開催した。
- ・ 6月28日 国府町林研グループ視察
- ・ 6月29日 岐阜県飛騨市林建共同組合視察
- ・ 7月11日 岐阜県恵那市林業関係団体視察
- ・ 7月13日 飛騨高山森林組合役員研修
- ・ 8月30日 秋田県能代市常盤財産区視察
- ・ 10月11日 飛騨高山高校生視察
- ・ 11月29日 京都府・鳥取県職員視察
- ・ 12月2日 静岡県・秋田県・福島県職員視察
- ・ 2月15日 福井県職員視察



飛騨高山高校生視察

融雪後の森林巡回結果について

- ・ 巡視した結果、凍み崩れによる崩土が見られた(崩土除去が必要)
- ・ 作業道についても同様に、路肩の浸食を受けた危険箇所が見られた。



凍み崩れによる崩土



路肩部の浸食箇所

森プロの成果 昨年に引き続き同様の成果が得られた。

森林組合と森林組合員との関係

- ・引き続き路網の必要性、路網密度の重要性を理解していただき計画どおり開設出来た。
- ・所有者が線形を決め現地にマーキングし組合が勾配等のチェックを行い修正を加えより所有者が望む作業道配置にできた。

森林組合について

- ・今までの森プロ団地での取り組みを生かし制度が森林経営計画に移行することを受け各地域に集約団地を計画するため勉強会を行った。
- ・各種研修の中でも特にドイツフォレスターの欧州型の作業道また将来木施業の考え方を受けて今後の進め方について見つめ直すことができた。
- ・比較的自社工場等に近いことから、中間土場は設けず山土場で荒仕分けし各市場へ出荷する事に心がけた。

欧州型の研修



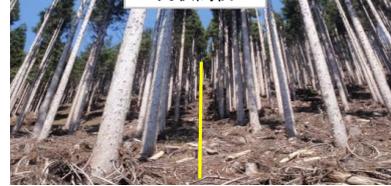
森林組合と飛騨農林事務所等との関係

- ・林業の制度改正に沿った指導を受けながら、環境に配慮した低コストの路網の設置となった。

JV構成員について

スイングヤーダでの簡易集材(最長50m)を取り入れた搬出を協力事業体を中心となり行った。従来よりも長いスパンでの列状間伐を行ったが、美しい山づくりができた。

列状間伐



今後の課題

- ・保育から木材利用へとシフトする現状、森プロの経験を生かしコストを押さえ資源の有効活用できる作業システムを構築しなければならない。
- ・簡易架線集材システムの中でも、索張り方法等研究し少しでもコストを下げて山元へさらに還元出来る方法を確立しなくてはならない。
- ・森林経営計画に移行し、集約化する事が大前提となる事を受け、各地でこの森プロ団地での取り組みを生かし健全で豊かな森づくりに取り組まなくてはならない。